

形質 番号	形質名	調査時期	形質 定義	調査 方法	データ量	変更点	掲載への 記載有無	変更の内容 ○旧基準の特性区分 ●新基準への対応と異同(留意事項)	新旧対照表 新：27,1改定 旧：16,2改定 の記載基準	特性値									備考(農水省からの補足)
										01	02	03	04	05	06	07	08	09	
49	後期の外稜頂部のアントシアニン着色の強弱	完熟期	QN	観察	(複数年)	新	無		新	無又は極弱		弱		中		強			全く着色がなければ半年データで結構です。
									旧	旧審査基準にはなかった形質									
50	後期の外稜頂部のアントシアニン着色の強弱	完熟期	QN	観察	(複数年)	新	無		新	無又は極弱		弱		中		強			全く着色がなければ半年データで結構です。
									旧	旧審査基準にはなかった形質									
53	籾の千粒重	完熟期	QN	測定	複数年	改	無		新	極小	かなり小	小	やや小	中	やや大	大	かなり大	極大	年次変動が少ないと考えられていますが、階級値設定における階級幅は数g程度であるため、複数年分のデータ収集をお願いします。
									旧			小		中		大			
55	籾の幅	完熟期	QN	測定	複数年	改	無		新			狭		中		広			
									旧			細		中		太			
58	玄米の千粒重	完熟期	QN	測定	複数年	新	有		新	極小	かなり小	小	やや小	中	やや大	大	かなり大	極大	年次変動が少ないと考えられていますが、階級値設定における階級幅は数g程度であるため、複数年分のデータ収集をお願いします。
									旧	旧審査基準にはなかった形質									
59	玄米の長さ	完熟期	QN	測定	複数年	改	無		新	極短	かなり短	短	やや短	中	やや長	長	かなり長	極長	
									旧			短		中		長			
60	玄米の幅	完熟期	QN	測定	複数年	改	無		新	極狭	かなり狭	狭	やや狭	中	やや広	広	かなり広	極広	
									旧			細		中		太			
61	玄米の形	完熟期	PQ	観察	複数年	改	無		新	円形	長円形	半紡錐形	紡錐形	長紡錐形					複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
									旧	円	半円	半紡錐形	紡錐形	長紡錐形					
64	胚乳のアミロース含量	完熟期	PQ	測定	複数年	改	有	摘録には数字のみ	新	1型	2型	3型	4型	5型	6型	7型	8型	9型	(摘録については半年データで結構です。)
									旧	1型	2型	3型	4型	5型	6型	7型			
65	胚乳の色	完熟期	PQ	観察	半年	新	無		新	白色	白色半透明	黄色半透明							年次変動が少ないPQ形質であると考えられているため、半年データで結構です。
									旧	旧審査基準にはなかった形質									
69	障害型耐冷性	完熟期	QN	測定	複数年	改	有		新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	標準品種のランクが別添のように変更されている
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
70	穂発芽性	完熟期	QN	測定	複数年	改	無		新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
71	耐倒伏性	期熟期～完熟期	QN	観察、測定	複数年	改	有		新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	基準の表記上は観察であり、標準品種との比較で評価しますが、実際は各品種の結果に評点を付して評価しているため、測定の記載を加えました。このため、評価方法につきましては、従来通りです。
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
72	脱粒性	完熟期	QN	観察	複数年	改	有		新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
74	寒いもちは凍結抵抗性	苗生長期～穂ばらみ期	QN	観察、測定	複数年	改	有		新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	基準の表記上は観察であり、標準品種との比較で評価しますが、実際は各品種の結果に評点を付して評価しているため、測定の記載を加えました。このため、評価方法につきましては、従来通りです。
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
75	暑いもちは凍結抵抗性	乳熟期～完熟期	QN	観察、測定	複数年	改	有		新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	基準の表記上は観察であり、標準品種との比較で評価しますが、実際は各品種の結果に評点を付して評価しているため、測定の記載を加えました。このため、評価方法につきましては、従来通りです。
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
77	白葉枯病は場抵抗性	乳熟期～期熟期	QN	観察、測定	複数年	改	無	これまで記載せず	新	極弱	かなり弱	弱	やや弱	中	やや強	強	かなり強	極強	基準の表記上は観察であり、標準品種との比較で評価しますが、実際は各品種の結果に評点を付して評価しているため、測定の記載を加えました。このため、評価方法につきましては、従来通りです。
									旧		極弱	弱	やや弱	中	やや強	強	極強		
80	トビイロウンカ抵抗性推定遺伝子型	分けつ期乳熟期	QL	観察	半年	改	無	これまで記載せず	新	+	Bph1	bph2	Bph3	bph4					
									旧	+	Bph1	bph2	Bph3	bph4	bph11				
81	精玄米の心白の発現の程度(両米品種に限る。)	完熟期	QN	観察、測定	複数年	改	無		新	20%以下	21-40%	41-60%	1-100	81%以上					基準の表記上は観察であり、標準品種との比較で評価しますが、実際は各品種の結果に評点を付して評価しているため、測定の記載を加えました。このため、評価方法につきましては、従来通りです。
									旧	5%以下		5-10%		11-20%		21-40%		40%以上	
82	グルテン含量	完熟期	QN	測定	複数年	改	無	これまで記載せず	新	極低	かなり低	低	やや低	中	やや高	高	かなり高	極高	
									旧	極低		低		中		高		極高	
83	カドミウム吸収性	完熟期	QN	測定	複数年	新	無		新			低		中		高			
									旧	旧審査基準にはなかった形質									

形質 番号	形質名	調査時期	形質 定義	調査 方法	データ量	変更点	摘録への 記載有無	変更の内容 ○旧基準の特性区分 ●新基準への対応と異同（留意事項）	新旧対照表 新：17,18改定 旧：14,15改定 の記載位置	特性値									備考（農水省からの補足）
										01	02	03	04	05	06	07	08	09	
2	基部葉の葉しよの色	穂ばらみ期	PQ	観察	(複数年)			根出葉の葉しよの色の記載											全く着色がなければ（「01 緑」であれば）単年データで結構です。
4	葉のアントシアニン着色の有無	穂ばらみ期	QL	観察	単年														
5	葉のアントシアニン着色の分布	穂ばらみ期	PQ	観察	複数年														(着色がある場合のみ評価)
6	葉しよのアントシアニン着色の有無	穂ばらみ期	QL	観察	単年														
9	葉耳のアントシアニン着色の有無	穂ばらみ期	QL	観察	単年														
10	葉の標のアントシアニン着色の有無	穂ばらみ期	QL	観察	単年														
11	葉舌の形	穂ばらみ期	PQ	観察	(複数年)														年次変動も考えられますが、出願品種との区別性がなければ単年データで結構です。
12	葉舌の色	穂ばらみ期	PQ	観察	単年														
13	葉身の長さ	穂ばらみ期	QN	測定(観察)	複数年														観察評価でも結構です。また、当該形質はより正確な評価を行うか、形質削除するか検討中です。
15	初期の止め葉の姿勢	開花期	QN	観察	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
16	後期の止め葉の姿勢	完熟期	QN	観察	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
18	稈のひざまずきの有無（浮稲品種に限る。）	穂ばらみ期	QL	観察	単年														
20	雄性不稔性	開花期	PQ	観察、測定	(複数年)														不稔性がない場合は単年データで結構です。
24	柱頭の色	開花期	PQ	観察	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
27	稈の節のアントシアニン着色の有無	乳熟期	QL	観察	単年														
29	稈の節間のアントシアニン着色の有無	乳熟期	QL	観察	単年														
32	芒の有無	開花期	QL	観察	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
33	初期の芒の色	開花期	PQ	観察	単年														年次変動が少ないPQ形質であると考えているため、単年データで結構です。
37	外穎先端の色	朔熟期～完熟期	PQ	観察	単年														年次変動が少ないPQ形質であると考えているため、単年データで結構です。
38	後期の芒の色	完熟期	PQ	観察	単年														年次変動が少ないPQ形質であると考えているため、単年データで結構です。
40	穂の二次枝梗の有無	完熟期	QL	観察	単年														
41	穂の二次枝梗の型	完熟期	PQ	観察	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
42	穂型	完熟期	QN	観察	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
45	葉の枯れ上がり時期	完熟期	QN	観察	複数年			葉：老化 の記載											複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
46	穎の色	完熟期	PQ	観察	(複数年)														全く着色がなければ単年データで結構です。
51	護穎の長さ	完熟期	QN	測定	複数年														長い護穎の長さ
52	護穎の色	完熟期	PQ	観察	単年														年次変動が少ないPQ形質であると考えているため、単年データで結構です。
54	穎の長さ	完熟期	QN	測定	複数年														外穎先端（芒は除外）から護穎基部までの長さ
56	穎のフェノール反応の有無	完熟期	QL	観察	単年														
57	穎のフェノール反応による着色の濃淡（フェノール反応のある品種に限る。）	完熟期	QN	観察	複数年														(反応がある場合のみ評価)
62	玄米の色	完熟期	PQ	観察	単年														年次変動が少ないPQ形質であると考えているため、単年データで結構です。
63	胚乳の型	完熟期	PQ	観察	単年														年次変動が少ないPQ形質であると考えているため、単年データで結構です。
66	精米のアルカリ崩壊性	完熟期	QN	測定	複数年														
67	玄米の香り	完熟期	QN	測定	複数年														複数年データとしていますが、実際は年次変動がないことを毎年確認する対応になるかと思います。
68	低温発芽性（陸稲品種に限る。）	苗生長期	QN	測定	複数年														
73	いもち病抵抗性推定遺伝子型	苗生長期	QL	測定	単年														
76	白葉枯病抵抗性品種群別	乳熟期～朔熟期	QL	観察	単年			これまで記載せず											
78	しま葉枯病抵抗性品種群別	分けつ期	QL	観察	単年			これまで記載せず											
79	ツマグロヨコバイ抵抗性品種群別	分けつ期乳熟期	QL	観察	単年			これまで記載せず											
	出穂遅延型耐冷性																		削除
	地上部全量																		削除
	プロタミン含量																		削除

橙色の形質は出願・対照品種データの他、標準品種データをもとに階級値設定が必要な形質ですので、複数年平均データではなく、各年データの提供をお願いします。